

しがありますが、食べると胃腸の症状を悪化させる要因にもなります。

- ・出血性大腸炎：便に粘液が混ざります。ときに出血が混じることがあります。精神的なストレスが大きく関与します。
- ・過敏性腸症候群：便秘と腸内ガス、下痢が交互にすることがあります。そのためにガスやおくびもよく出ます。鼓腸により、胃が張る感覚になり、腹部左上部にズキズキする痛みを感じることもあります。
- ・腹部膨満

■その他

- ・結膜炎：眼は充血し、目やにがたくさん出ます。冷湿布で改善します。
- ・激しい動悸：心臓が飛び出しそうな感覚になります。右下に寝ると悪化します。
- ・インポテンス：心配症で悪化します。
- ・右精巣、右卵巣の痛み
- ・喉の哽声：とくに声をよく使う場合に起きます。粘着質の痰がからむことがあります。
- ・咽頭炎
- ・喉の乳頭腫やいぼ
- ・慢性疲労症候群：定期的に激しい疲れを感じます。

MODALITY

- 新鮮な空気、涼しい空気、外気、寒さ、冷水浴、患部の強い圧迫、運動、体を二つ折りにする
- ◀ 感情的になること、心配、恐怖、不安、予期不安、ストレス、温かさ、暑さ、冷たい食べ物、アイスクリーム、甘い食べ物、左側、締め切った狭い部屋、右下に寝ること、下を見下ろすこと、生理前と生理中、乗り物に乗ることなど

RELATIONS

- ・ Antidoted by : Ammonium causticum, Natrum muriaticum, Arsenicum album, 牛乳
- ・ Antidote to : Pulsatilla, Calcarea carbonica, Sepia, Lycopodium, Silica, Rhus toxicodendron, Phosphorus, Sulphur
- ・ Incompatible : Coffea (神経性の頭痛を悪化させます)
- ・ Follows well : Bryonia, Spigelia Spongia, Cauticum, Veratrum album
- ・ Is followed well by : Lycopodium

Arnica montana アルニカモンタナ [打撲、外傷]

Arnica montana L.

Doronicum oppositifolium Lam., Doronicum arnica Desf.

BACK GROUND

Arnica montanaは、ヨーロッパ中部から北部の高山帯やシベリア、アメリカ北西部、カナダなどの山地や牧草地などの酸性泥炭質土壤に自生する、キク科ウサギギク属の多年性植物です。高さは20～50cmで、葉は軟らかくて細かい綿毛に覆われており、橙黄色の花を7月に咲かせます。その形状は、日本産高山植物のウサギギクによく似ています。一般的には、アルニカと呼ばれていますが、ほかにもLeopard's bane, Wolf's bane, Mountain tobacco, Sneezewortなどとも呼ばれます。

Arnicaは、この植物の葉の肌触りの感触に由来する、ギリシア語のanakis 子羊の毛皮から来ています。種小名のmontanaは、この植物の生息する山岳地帯に由来しています。

ヨーロッパでは古くから、花と根茎を外傷の万能薬として使用しています。この植物の薬効について最初に記録したのは、ドイツの修道女聖ヒルデガルドです。この植物には、利尿作用、解熱作用、消炎作用、抗菌作用、免疫賦活作用、鎮痛作用、血行促進作用などが認められるため、さまざまな外傷、打撲傷、挫傷、出血、神経痛などに使用されています。また、赤痢やマラリアの治療薬としても処方されていました。

外用薬としての効果はとくに優れていて、外傷や打撲傷、捻挫、皮膚炎、筋肉痛や関節炎、リウマチ、足の腫れと痛みにも効果があります。ケガの後遺症にも使用されています。昔から登山家の間では、登山中この植物の葉を噛んで、筋肉痛や転んでケガをしたときなどの治癒を早める薬草として知られています。しかしながら、この植物の湿布は頻回に付け過ぎると、皮膚



に炎症を起こすことが知られています。

アルニカの有効成分は非常に複雑で、そのうちの代表的な成分には次のようなものがあります。

- ・アルニチン、各種フラボノイド：静脈に親和性があるほか、心臓にも作用し、冠状動脈の拡張作用や抗高血圧作用などが認められています。アルニチンは、根よりも花に多く含まれています。
- ・各種フェノール類：コーヒー酸、クロロゲン酸など。心臓血管系に作用するほか、抗菌作用や抗真菌作用などもあります。
- ・ヘレナリンに代表される各種ラクトン類：皮膚刺激作用、抗炎症作用、抗出血作用などがあります。
- ・カロチノイド色素：抗神経痛作用、抗リウマチ作用、抗炎症作用などがあります。
- ・多糖類：イヌリンなど

ほかに、トリテルペノイド、サポニン、タンニン、プリンなどの成分を含みます。イヌリンは、一部のキク科の植物の根・塊茎に含まれている多糖です。加水分解されると果糖になり、強い甘味となります。イヌリンは、胃腸の働きを促し、血液中の中性脂肪、コレステロールを下げ、インスリン濃度、血糖値を下げ、免疫刺激、腸内の善玉菌を増殖活性化させるなどの作用が知られています。この成分は、レメディでよく使用される植物の中では、Arnicaのほかにも、Cichorium intybus, Taraxacum officinale, Inula helenium, Archtium lappa, Echinaceaなどに含まれています。

MATERIAL

開花期の全草

FIRST PROVING

ハーネマン (『Materia Medica Pura』第1巻)

MIND

Arnicaタイプの性格は、怒りっぽくて、頑固になり、人の意見を聞かない傾向があります。人が近づいてくるのを嫌い、また触られるのは大嫌いです。恐がりです。1人でいるのを好みます。痛みに弱く、過敏なくせに、ケガをしても自分は具合が悪くないと主張します。医者に病気をみせるのも嫌います。疲れているとなかなか寝つけずに、落ち着きがありません。

AFFINITY

Arnicaは、主に血液、血管、筋肉、神経、消化器系に親和性をもっています。

CLINICAL APPLICATIONS

Arnica montanaは、あらゆるタイプの外傷、筋肉の疲労などによく使用されます。

■あらゆるタイプの外傷

■外傷後の後遺症

■手術前後の回復促進

■脳震とう

■筋肉疲労

- ・打撲
- ・過度の負荷による筋肉痛：ベッドが硬く感じられます (Baptisia pyrogenium, Rhus toxicodendron)。
- ・捻挫、関節炎
- 静脈、毛細血管
- ・脆弱な毛細血管による各種疾患：血腫、斑状出血、粘膜の出血など
- ・血尿を伴う腎炎
- ・外傷時、手術後の出血、血腫
- ・鼻血
- ・抜歯

■出産時の補助

- ・出産による性器のダメージの回復
- ・出産後の胎盤停滞
- ・外傷やショックによる切迫流産
- ・新生児の頭血腫

■熱性疾患

- ・再発性の発熱
- ・出血傾向の疾患をもつ発熱

■精神

- ・ショック、心的外傷後ストレス障害

MODALITY

➤ 頭を低くして寝ること、横になってストレッチすることなど

❖ 寒さ、湿気、外傷、打撲、ショック、負荷のかか

る運動、わずかに触れること、休息、ワイン、アルコール飲料、睡眠後、左下に寝ることなど

RELATIONS

- Antidotes : Camphora, Vitex trifolia
- Complementary : Aconite, Ipecacuanha
- Followes well : Aconite, Ipecacuanha, Hamamelis, Veratrum album, Apis

- Followed well by : Aconite, Arsenicum album, Bryonia, Ipecacuanha, Rhus toxicodendron
- Antidote to : Am-c., China, Cic., Ferrum phos., Ignatia, Senega
- Antidoted by : Camphora, Ipecacuanha, コーヒー, Aconite, Arsenicum album, China, Ignatia, Ipecacuanha

Arsenicum album 三酸化二砒素 As_2O_3 [寒がり、焼けるような痛み、少量頻回の飲水]

Arsenic trioxide- As_2O_3

BACK GROUND

砒素 Arsenic は、原子番号 33、元素記号 As、原子量 74.92159、周期表の 15 族に属していて、金属と非金属の中間の性質をもつ窒素系元素です。物理的性質は金属に類似していますが、化学的性質は燐に類似しています。英名 arsenic は、ギリシア語の砒素を含む鉱石名 arsenikon (雄黄) に由来します。その意味は、やはりギリシア語の Arsen 男性という語に由来します。砒素は、純粋な状態で天然に産出することもあります。主に硫砒鉄鉱 $FeAsS$ などの硫化物として存在し、また鶏冠石 As_4S_4 、雄黄 (石黄) As_2S_3 、アルセノライト (三酸化二砒素) As_2O_3 としても存在しています。単体としての砒素は毒性が低く、ほとんどの砒素中毒は、毒性のもっとも強い三酸化二砒素によって起こっています。



砒素の主な用途としては、農薬、ガラス製造工程の不純物による緑色の脱色、医薬品、金属砒素の製造、軍用の毒ガス、顔料、染料、脱硫剤、防腐剤、殺虫剤、

レンズ、花火の着色剤などがあります。また最近では、砒素は半導体材料としても優れた性質をもち、砒化ガリウム、砒化インジウムなどの半導体素子が、コンパクトディスク (CD) の信号読み取り装置の半導体レーザーや、光通信システム用の発光ダイオードなどにも利用されています。

ホメオパシーのレメディ Arsenicum album は、三酸化二砒素 diarsenic trioxide が原料です。化学式は As_2O_3 で、金属砒素の燃焼で生じます。一般的には、亜砒酸とも呼ばれている、無味無臭のサラサラとした猛毒の白色粉末です。この無味無臭という性質によって多くの事件に使われることになります。両性酸化物で、酸・アルカリの両方に溶けます。人の致死量は 0.06～0.2g です。紀元前 404 年に始まったペロポネス戦争において、すでに毒ガスとして使用したという記録が残されています。

日本では、江戸時代の石見銀山ネズミ取りや森永砒素ミルク事件、宮崎県土呂久鉱山周辺地区および島根県笹ヶ谷鉱山周辺地区の集団砒素中毒、砒素中毒と歌山カレー事件などが有名です。また、殺鼠剤として使われていた岩見銀山の湧き水は、多量の亜砒酸を含んでいます。

砒素嗜食者 Arsenic eater の習慣は、中国とオーストリアにあります。昔の中国華中・華南では、色白肌の美人になるために、女の子に幼い頃より毎日微量の砒霜と呼ばれる亜砒酸を飲ませる習慣があったそうです。また、オーストリアでは健康増進と肌の色つやをよくするために、毎日微量の砒素を服用していた地域があったといえます。

16 世紀半ばには、南イタリアの老女トファーニャ